

## 新春交流会

## 留学生が熱く語った「私が見た日本人像」

2月13日JICAの地球広場で新春交流会が開催されました。司会の奥山寿子事務局長が開会を告げ、上高子理事長代行の、多文化共生を目指しているアジ風の基本理念に触れたあいさつで始まりました。

## ＜留学生のプレゼンテーション＞

テーマは「私が見た日本人像」。12名の留学生が、Iメイトの助言を得ながら、インターネット上の動画サイトにプレゼンテーションをアップロードして応募するという方法を取りました。一次選考は正会員4名と事務局2名が審査をし、選ばれた6名が新春交流会の当日に、参加者の前で発表しました。留学生に

＜笑顔でプレゼンを締めくくったニーさん＞は日本人がどのように映っているのか、日本は外国の若者にとって、どんな国なのか。6人の発表はそれぞれの個性が出て、興味深い内容で、日本人参加者全員が審査員として評価しました。

（▶2ページ「留学生プレゼンテーションのサマリー」参照）

## ＜ゲストの紹介＞

インドネシアの歴史と経済の専門家東京大学名誉教授の加納啓良先生、森びとプロジェクト委員会の高橋佳夫副理事長、日経HRの赤羽根大輔さんをご紹介します、コメントをいただきました。

## ＜懇親会＞

JICAのエスニック料理を囲んで、あちこちで笑い声が聞こえ話の輪が広がっていました。今年はベトナムとタイの留学生が参加し、和やかな懇親会となりました。



＜美味しいお料理に  
広がった会話の輪＞

## ＜結果発表＞

結果は中村一郎理事から発表され、1位は「日本人の仕事ぶり」について発表したハー・チャウ・バオ・ニーさん、2位は「外国人の声」と題して発表したクスマー・タイニコムさんで、その他の4人は3位入賞です。それぞれ表彰状と賞金を授与されました。

3時間余りがあったという間に過ぎ、再会を約束して解散しましたが、留学生たちはそれぞれのIメイトと食事をしたり、東京タワーを見学したりと、1日中楽しんだようです。

## 「留学生が見た日本人像」

## —ディスカッションで世代を超えた交流—

2月14日（日）世田谷区にある昭和女子大の会館で、「留学生によるプレゼン大会」が行われました。昨年に引き続き世田谷区の助成事業として実施したもので、前日の新春交流会で発表をした6名の留学生が、場所と聴衆を変え、55名の参加者の前で、「日本人像」についてプレゼンテーションをしたものです。印象に残ったのは、3・11の時、整然と並んで支援物資を受け取る日本人の姿に感動し、日本語を学び始めたという話。その他日本人の美点が多く挙げられました（一方、NOをはっきり言わないという欠点も）。交流会では、6つのグループに分かれ、それぞれ

## 三国交流会 —タマサート大学で開催—

2月18日の午後、タイのスワンナプーム国際空港に到着。空港でタマサート大学のIメイト学生の出迎えを受け、貿易大学から到着の参加者と合流しました。

翌19日は大学近くの高校を訪問。日本語を学ぶ高校生らの歓声に迎えられました。AKB48のダンスやグループ別に話し合った内容から、タイの若者に日本のポップカルチャーが浸透していることを実感しました。その後、広大なランシットキャンパスを、



大学のバスで、案内役の学生たちがクイズや資料を準備して案内をしてくれました。

午後の交流会は、タマサート大学の学部長の挨拶に始まり、国際交流基金「国際結婚」についてのディスカッション金の中島遥香さん、アジ風の奥山事務局長、貿易大学のトゥーイ先生の挨拶が続いて、その後、グループ別に「国際結婚」をテーマに話し合いました。当時研修で来ていた福井大学の学生さんたちも参加して、3国の若者の意見をアジ風の熟年会員がまとめるという方法で進めました。

次は各国の文化紹介です。ベトナムはベトナムコーヒーの入れ方、民族舞踊、タイはココナツの葉のクラフト、ココナツの殻踊り、そして両国の民族衣装の紹介をし、最後は日本の番です。会員で歌手の金井優佳さんがアジアの若者に人気の日本の歌や、タイ語とベトナム語の歌を披露し、会場は大いに盛り上がりしました。その後、会員の藤原ひさ子さんの指導で参加者が書道に挑戦し、作品を披露しました。

夜は大学内の食堂で懇親会を行い、カラオケや落語も飛び出し、夜遅くまで和やかな交流が続きました。

2月20日はマングローブ植林ツアーに参加しました。

三国交流会は大きな成果を得て終了しました。助成金をいただいた国際交流基金、周到な準備を進めてくださったタマサ



ト大学の関係者ならびに、貿易大学の参加者の皆さまに心より感謝いたします（詳細は『別冊Iメイト便り12号…』で）。（▶3ページ「三国交流会特集」参照）

プレゼンテーションについて感想や意見を述べ合いました。3・11の時整然と並んだ日本人が、オイルショックの時は物資を奪い合ったという事実がありましたが、それはなぜか、などと話し合ったグループもあったようです。



＜奪い合いをしないのは、配給が十分足りるとわかっているからでしょう＞

昭和女子大と鴎友学園の学生さんたちからの、感想文（▶2ページ「世田谷区…」参照）をご覧ください。国も年齢も超えたディスカッションで、一般の参加者からは「異文化について考えるよい機会だった」とのコメントが聞かれました。

「日本人の仕事ぶり」

冬休み1週間静岡にある旅館でアルバイトをして、日本人は本当にすごいと思うようになりました。理由の1つ目は何をしても他の人に気配りをしていることです。2つ目は手間を惜しまず何でもきちんと取り組むことです。3つ目は勤勉であることです。日本人の仕事ぶりを勉強し、ベトナム人のやり方を組み合わせ、自分の仕事に活かしたいです！



ハー・チャウ・バオ・ニー (貿易大学→同志社大学)

「日本へのたくさんのお礼とひとつの注文」

日本人は規律正しい方々だと思います。どこでもいつも日本人がきちんと並ぶ姿が見えます。それは非常に印象に残っています。



うれしいですよ。

ナッタカーン・インルン (タマサート大学→三重大学)

しかし、驚いたところもあります。これははっきりものを言わないことです。外国人にとっては分かりにくくて、困ります。それで、外国人と話す時は、はっきりおっしゃっていただいたら、

「電車内、寮生活、アルバイトから見た私が感じた日本人の姿」

4か月で、日本のことが少しずつわかって来た。駅の道を教える方、整然と並んで、電車を乗り降り方、電車内有効に読書で時間を使い方を通じて、日本の文化を感じた。さらに、バイトと生活のおかげで、細かいことから日本人の気配りが実感できた。日本ことを理解して、自分の将来の大切なステップにしたいとおもう。



ドー・ハー・トゥー (貿易大学→神田外語大学)

「外国人の声」



日本について様々な意見を聞いて、事実を探しに日本に来ました。短期で接した日本人のおもてなしに関心を持って何回も日本に戻ってきました。しかし実際に日本で暮らしてみると、やはり外国人はまだ珍しく見られています。日本人の本来は優しいので接さないといけないときに差別せずに本来の優しい心で対応して頂けると嬉しいです。  
クスマー・タイニコム (タマサート大学→お茶の水女子大学研究生→琉球大学大学院)

「文化には理由がある」



日本で生活しながら自分の中で色々な特徴がある日本人像ができその中で一番印象的なのは日本人は何かをする時或いは何かが既に行われている時、何故そうするのだろうか？と言う「理由」を深く考えることです。そしてそれが合理的なら続けるし、改善が必要であれば改善すると言う考えを懂れて将来の仕事にも活かしたいのです。  
ゲン・タイン・マイ (貿易大学→東北大学)

「実感できた日本人」



日本に来て、色々な事を発見できました。思った日本人像は日本に来て発見した日本人像と結構違います。印象的だったことは日本人はよく他の人に気を使うことです。私もよく日本人から手伝ってもらるので、本当に感謝していて、そのことがよい日本人像を確固たるものにしていきます。留学して実際にいろいろ体験して勉強できて視野が広がったと感じています。  
ポンナパー・スックブン (タマサート大学→東京学芸大学)

世田谷区助成事業「留学生によるプレゼン大会」  
— プレゼンを聞いて一緒に考えた若者からの声 —

「外国人vs日本人ではなく」人間としての相互理解へ

昭和女子大学・現代教養学科のシムゼミは、留学生発表会兼交流会で司会・進行役を務めました。発表会で印象に残ったのは日本人を礼儀正しいと思っている留学生が多かったことです。



◀シムゼミの皆さん。

右から2番目が木崎さん▶

電車に乗る際には降りる人を待ってから乗ることや東日本大震災できちんと並んで救援物資を受け取る様子など、当たり前と思っていた行動が素晴らしいと指摘されたのが新鮮でした。ただ、海外とのギャップを感じることも多々ありました。例えば、日本人は電車内で他人とは話しません、タイではバス内でも知らない人と話し、降りる頃には仲良くなっていることがあるそうです。その後のグループディスカッションには中学生から人生の先輩まで幅広い年齢層が集まっていたため、世代や国籍を超えた意見交換ができて有意義な時間となりました。

今回の交流会で、留学生から見る日本人像を知ることができた一方で、外国人に対して配慮が足りない現状も生の声で聞いて反省させられる点もありました。外国人vs日本人ではなく、同じ人間として理解を深めることによってより良い世界が実現されると強く感じました。

木崎 優香 (昭和女子大学・現代教養学科・シムゼミ3年生)

「留学生プレゼンテーション+親睦会」で感じたこと

プレゼンテーションを聞いて、まず驚いたのはみんな日本語

が流暢な事です。そして普段気が付かない、日本の良いところ、悪いところを客観的に知ることが出来ました。特に印象深かったのは、日本人は観光客には優しいが、生活をしようとするとな厳しくなること、日本人の外国人に対する対応に矛盾がある、などの意見で、これらを通して「現代社会」を深く理解する事が出来、自分自身の行動を振り返る良い機会となりました。

高木 ひかり、吉田 未宇 (鷗友学園女子中学校3年生)

アジ風奨学金に寄付者募集中！  
上 岳史さん (正会員) からご寄付いただきました

上 岳史は設立当初からの会員で、筆者の長男ですが、仕事が多忙のためアジ風のイベントにはほとんど参加していません。NPO活動には関心がないのかとあきらめていましたが、このたび奨学金基金へ貢献をしてくれて、大変うれしく思っています。

今年度の第二回奨学生募集は、5月末で締め切ります。該当者はぜひご応募ください。(奨学基金担当理事 上 高子)



一昨年から、社会企業家として発達障害児の塾経営を始めました。ようやく事業が軌道に乗ってきて、アジ風の支援ができるようになりましたので、奨学基金へ寄付することにしました。「社会貢献」という考えは、母親から影響を受けたもので、それは自分自身の生きがいになると思っています。アジアの有能な人材が日本企業で活躍してくれることを期待しています

(正会員 上 岳史)



参加されたタマサート大学タサニー先生、貿易大学トゥーイ先生、そして会員の小林さんと坂東さんからの感想をお届けします。

### 「タイで！日本語で！有意義で刺激的だった三国交流会」

日本人だけでなくベトナム人とも日本語で話すというこの交流会は、多くの学生にとって初めての経験であり、大変有意義で刺激になる交流会でした！



この「三国交流会」は、Iメイト学生達が主体的に企画・運営をしました。ベトナムとタイの学生達が日本語を使い、それぞれリーダーシップを発揮し、調整をしながら全体をよくまとめていくその微笑ましい光景に、心が温かくなりました。

このような一大イベントの準備の為に、NPOアジアの新しい風、貿易大学の皆さまが多くの時間を割いてくださいましたことに、心より感謝申し上げます。主催者として至らぬ点や配慮が足りなかった部分もあったかと思いますが、これからも末永くよろしくお願い致します。

タサニー・メーターピスット先生（タマサート大学教養学部日本語学科）

### 「サワディカ！タイランド」

今回初参加でしたが、まさに百聞は一見に如かず、実り多き交流会でした。これまでは、メールのやり取りだけで、顔が見えなかったが、実際に彼の国に行き、気候、風土、街の雰囲気の中に浸かり、いろいろ話し合うとほんの少しだけですが、タイという国の一片を知り、親近感が増し関心も高くなりました。国際交流はやはり、人と人が顔を突き合わすことから始まるというのが原点と



改めて実感。高校生との交流もプラスでした。

今回は特に関係者の方々が入念に準備されたおかげで、交流会は随分盛り上がり、学生も満足したのではないのでしょうか。皆での踊りのパフォーマンスや書道・マングローブ植林等、体を動かしての活動は一体感を醸し出すのにたいそう有効でした。相手を知ることから始め、理解し、相互信頼を深められたと思います。お世話になった関係者の皆様と面倒を見てもらったIメイトのチットラ・ピロムさん（愛称ミッキーさん）に感謝・感謝。

小林 俊介（正会員）

### 「三国交流会でさらに深まった相互理解」

この度は、タマサート大学でアジ風の会員の方々と再会でき、大変嬉しく存じます。貿易大学とアジ風の交流は2008年に始まり、これまで数多くの事業がアジ風と当学部の共同で開催されてきました。こうした交流活動を通じ、本学学生の日本への関心や理解がますます深まっていると感じております。



昨年、国際交流基金の助成で「三国交流会」が初めて貿易大学で開催されました。今回は、場所がタマサート大学に変わり、第2回目の開催。両大学の学生にとって、相互理解の深化、フレンドシップやネットワーク作り、日本語学習の意欲向上に繋がる貴重な体験ができました。アジアの新しい風には心より感謝しています。今回の交流会も忘れられない素晴らしい経験となりました。チャン・ティ・トゥ・トゥーイ（貿易大学ビジネス日本語学部）

### 「第2回三国交流会に参加して」

タマサート大学、ハノイ貿易大学との第2回三国交流会に向け、真冬の日本を出発したアジ風会員をバンコクで温かく迎えてくれたのは、両大学のIメイト学生達の笑顔だった。



貿易大学のトゥさん（右側）、タマサート大学のナッタワディーさんと共に

その中に仲良く談笑する私の二人のIメイト学生、貿易大学のトゥさんとタマサート大学のナッタワディーさんがいた。二人とは初対面だったが、まるで旧知の如く話が弾み、今までの交流の賜物と感じた。

Iメイト交流はメールやSNSを利用した草の根交流を通して、異文化理解や人間的な成長を企図している。三国交流会は相手国でお互いの顔が見える交流会であり、普段の交流を大いに補ってくれる。初めて参加したが、楽しいだけでなく、沢山の刺激を得ることができた。

Iメイト学生と直接話す事ができたことで、互いの距離が近くなり、これからの交流がより活発で有意義なものになりそうである。二人の学生は今年から日本留学が決まり、日本での勉強に意欲を燃やしている。今後は日本でのIメイト交流を楽しみにしている。

坂東 敏弘（正会員）

## 会員紹介

中村 泰寿さん

### 大学の同期と会社の同期がアジ風に居た



会社（住友倉庫）の同期生に森元貞宏が居た。2009年の同期会の近況報告で森元が言った。「アジアの新しい風というNPOに入会した。タイやベトナムや中国の日本語専攻の学生達に日本語や日本の文化を教える会で、僕らも彼らからいろいろ教えられる。定年退職後に若さを保つには持って来いだよ」。その話がなぜか記憶に残っていた。4年後の2013年に大学（関西学院大学）の東京同期会で奥山寿子に会った。奥山がアジアの学生達との交流の話をした。どこかで聞いたことのある話だと思った。その年の6月17日に日経新聞に載った上高子事務局長のアジアの新しい風の紹介記事を見て驚いた。写真に奥山寿子が写っていた。これだったのだ。中村は早速森元に電話した。「上さんに頼んで僕をアジ風に入れてくれ」。間もなく奥山から連絡が来た。「何を言ってるのよ、私に言えば済むことよ」。

それからはアジ風にすっぴりのめりこんだ。入会して丸2年半になるが、その間Iメイトも徐々に増え、タマサート大学2名、貿易大学2名、清華大学1名のIメイト学生と交流を経験している。2015年3月には三国交流で貿易大学を訪問した。タマサート大学からもう一人のIメイト学生も参加し、3人が一堂に会した。感激だった。2016年2月にはタマサート大学にも行った。とはいえ、すべてが順風満帆というわけではない。同じように交流している筈なのに、スムーズに交流できる人とできない人がいる。人と人との繋がりだから仕方ないことだろうなど中村は言う。

貿易大学の学生が家に来てくれることになった。奥様は心を込めて歓待してくれた。翌日は夫婦でIメイト学生を連れて東京見物に出かけた。とても喜んでくれた。「これからもこのような交流をできる限り続けたい、そのためには妻の協力が欠かせない、妻のより深い理解を得られるよう僕は頑張るつもりだ」、中村はインタビューをそう言って締めくくった。

（インタビュー：園田 成和）





## 交流コーディネーターもIメイト交流を楽しんでいます!

## 北京での再会



〈Iメイトの田さんと〉

私が今まで交流した清華大学のIメイトは3人だ。その中で、最初に交流した于朔(男性)さんは、現在修士2年生。2番目の田 壘儀(女性)さんは4年生。二人とも京都大学へ留学し、我が家に泊まり、女房と一緒に他愛のない色々な話をしたこともあって、以降、お互い心が目に見えない糸で繋がった感がある。

私は新宿ライオンズクラブの会員でもあるが、東京の他クラブ

の会員と共に、今年1月8日～11日北京ライオンズクラブ10周年記念に招待された。「せっかく会うのだから、二人にライオンズクラブの交流の場で通訳をして貰おう」と二人を誘ったところ、「はい、わかりました」との返事。9日の10周年記念大会では、田さんに私のテーブル席で通訳をして頂いた。さらに翌日、于さん、田さん一緒に、日本・中国・モンゴルライオンズクラブの昼食会で通訳、そして紫禁城見学では通訳ガイドをして頂いた。「初めての参加だけど、いい体験になったわ」とは田さんの弁。でも、私の中国語は全く通じず、内心がっかり落ち込んだ。

伊藤 春雄(清華大学Iメイト交流コーディネーター)

## Iメイトとの再会と新しい出会い



〈カン君(中央)とマニーラットさん(右側)と共に〉

今年2月のタマサート大学の三国交流会では二人のIメイトと会うことができました。

ハノイ貿易大学のカン君とは昨年3月の貿易大学の三国交流会で初めて会いましたが、今回の交流会には彼もベトナムから参加しました。スワンナプーム国際空港に到着したあとすぐに

再会し、タマサート大学への車中ではあたかも昔からの友達のように語り合いました。タマサート大学のマニーラットさんは写真

だけでしか見たことがないので、交流会に参加している大勢の学生の中から彼女を探し出すことはなかなか困難でした。会場の中を尋ね歩いた末にやっと会うことができました。彼女はダンスのイベントにも出演しており、その後片付けなどもあって会話を交わしたのはわずかでしたが、初めての出会いにもかかわらず打ち解けた雰囲気でお互いの近況を紹介しあいました。

カン君は4月から長崎外国語大学へ、10月にはマニーラットさんが東京学芸大学に留学します。こんどは日本での再会です。二人との友好をさらに深めることができるだろうと今から心待ちにしています。

古畑 仁一(タマサート大学Iメイト交流コーディネーター)

## Iメイト交流コーディネーターの名付け親



ハノイ貿易大学の日本語講師の仕事を終えて、2009年6月に日本に帰国した際に、何か私がお手伝いできる事はないかと考えました。それまで会員と学生を繋ぐ仕事は上事務局長(当時)が一人で3大学を担当されていて、とても大変そうでした。「貿易大の実情をよく知っている私が貿易大のその仕事を引き受けましょうか」と申し出ました。他の2大学にもそれぞれ担当者を置くことが

決まり、名前も「Iメイト交流コーディネーターはどうですか」

と提案して今日に至っています。

その後JICAで2年間ネパールへ、去年は国際交流基金の仕事でベトナムへ派遣されていた間は、杉本典子さんが代わりにその業務を引き受けて下さりとても助かりました。日本語講師をしていた時代は、貿易大から日本への留学生は年に2～3人でした。その頃の留学生はその後日本で就職、結婚し、今でもよく東京で会っています。今では貿易大からの留学生は年間18人にもなり、コーディネーターとして留学生の数が年々増えていくのを大変嬉しく思っています。

児玉 久美子(貿易大学Iメイト交流コーディネーター)

新井 雅夫さんが  
顧問に就任

2003年のアジ風設立以来、役員として多方面にわたりご尽力を下さった新井さんは、昨年、理事を退任されました。ご本人は「私はアジ風の終身会員です」とおっしゃっていましたが、このたび顧問として、各種イベントの企画や、協働する外部団体とのプロジェクトの運営などへのご助言を頂けることになりました。更なるご貢献に感謝です

Uさん、歌手生活  
15周年記念コンサート開催!

ほぼ設立当初から、アジ風の正会員であり、プロ歌手として活躍中の金井優佳さん(通称Uさん)の15周年記念コンサートが、さる3月19日の夕方より、銀座のYAMAHAホールで盛大に開催されました。会場には30名を超えるアジ風関係者も駆けつけ、素敵なライブコンサートを楽しみました。

## 今後の主な行事予定

※ 詳しくはHPでご確認ください

4月17日(日)

春のIメイト交流会 11:00～  
(於: NHK青山荘)

5月19日(木)～22日(日)

清華大学訪問

5月28日(土)～29日(日)

宮城県岩沼市「千年希望  
の丘植樹祭2016」

6月18日(土)

西日本地区交流会

## ・・・編集後記・・・

今年の3月11日で、東日本大震災から丸五年が過ぎた。長かったようで、短かったような歳月だったが、あの瞬間に、大切な家族を失い、住む家を失い、生活の基盤や将来の夢を失った多くの人々の苦悩の道は続いている。アジ風は2011年の岩手県大槌町でのボランティア活動から始まり、毎年被災地支援のボランティア活動を続けている。最初に訪れた大槌町の人々と今も個人的に交流を続けている会員の方々もいる。ボランティア活動には、いつもIメイト留学生が参加してくれるが、彼らは被災者の皆さんから、勇気や知恵を沢山もらったと話している。母国での地震や水害などに、日本の知恵や経験を生かしたいと言った留学生も多い。こうして、草の根の交流が続く。今年のボランティア活動は、宮城県岩沼市の「千年希望の丘植樹祭2016」に参加する予定だ。多くの会員の皆さんと留学生の参加を心からお待ちしている。

(古海 正子)